



飯地町五明
よこえ みか
横江 美架さん (46歳)

□プロフィール

飯地町生まれ、飯地町育ち。趣味は、家族できれいな景色を見に行くこと。元々は工場や振興事務所で働いていたが、株式会社まちづくり飯地の代表取締役になり、飯地商店をオープンさせた。



▲訪れる人も買い物ついでに世間話をする

小さな店を交流の拠点に
飯地町で唯一の商店を営む

市内中心部から車を走らせること約30分。曲がりくねった山道を進んだ先に、本年4月にオープンしたばかりの飯地商店がある。日用品や鮮魚などの食料品、酒類を幅広く販売する小さな店。横江美架さんは、この店を運営する株式会社まちづくり飯地の代表取締役を務めている。

ここは元々、二葉屋という別の店舗だったが、3月末で閉店することになった。町民の買い物場として親しまれ、横江さんも幼いころから通ってきた。「町民にとって、なくてはならない場所。ここで終わらせてはいけない」と店を引き継ぐことを決意した。

しかし、開業するには資格やたぐさんの免許が必要だった。「酒類を販売する免許を取得するため、何度も税務署に足を運んだ」と悪戦苦闘した当時を振り返る。開業できるか不安な日々を過ごす中、仲間たちが税務署に提出する資料作成を手伝ってくれたり、地域の

子どもや大人たちが壁のペンキ塗りや床の張り替えなどの店舗改装を手伝ってくれたりした。

現在は前の店舗と同じく、店頭販売の他、こども園へ食材の配達をしている。多世代の人に来てもらえるように、扱う商品もさまざま。今は、新鮮な食材を仕入れるため、朝早くから市場に出かけて仕入れのこつを勉強している。

店の一角には、木のテーブルと椅子が置いてある。これも、地元の木工が厚意で作ってくれたものだ。ここで、買い物に来た人たちが食事をしたり、子どもたちが絵を描いて遊んだりしている。「性別や年齢、住んでいる場所など関係なく、みんなが気軽に集まり、楽しく交流できる場所にした」と目標を語る。いずれば、店舗2階に、まちづくりのためのオフィスを構えたいと考えている。

「小さな拠点から町を盛り上げていきたい」と元気に話す声が、今日も飯地の里山に響いている。



その他の話題もウェブサイトに満載

4/15

おひねり飛び交う
五毛座で5年ぶりの歌舞伎



飯地町の歌舞伎小屋「五毛座」で5年ぶりに地歌舞伎の公演が行われました。飯地五毛座歌舞伎保存会による演目の他、地元の小中学生による演目、中野方めれた囃子保存会による演奏も披露され、市内外から訪れた約200人が、地元で伝わる伝統文化を楽しみました。

4/6

ポーランドからシロンスク県
知事が来訪



ポーランド共和国シロンスク県のヤコブ・ヘウストフキ知事らが本市を訪れ、恵那の文化や自然、歴史を堪能しました。中山道広重美術館で浮世絵版画の重ね摺りを体験したり、オリンピック事前キャンプ地の笠置峠を訪問したり、岩村城を見学したりしました。

4/23

市中央図書館が子どもの読書
活動優秀実践図書館に選出



令和5年度子どもの読書活動優秀実践図書館として市中央図書館が文部科学大臣表彰を受賞しました。子どもの本への関心や興味を深めるため、ボランティア団体「図書館サポーターえな」と協力し、年代に合わせたイベントを開催していることなどが評価されました。

4/16

4年ぶりの開催
恵那峡ハーフマラソン



4年ぶりに、第20回恵那峡ハーフマラソンが開催されました。ハーフマラソンコースには1,112人がエントリー。起伏に富んだコースに時折顔をこわばらせながらも、観客の声援に応えながら21.0975kmの道のりを駆け抜けました。

5/3

50回目の光秀まつりが
盛大に開催される



明智町で、第50回光秀まつり・第34回ちよつとおんさい祭りが開催されました。武将行列や竹下景子さんの大正村長3期目の就任式が行われた他、中学生らによる光秀音頭の踊りや迫力満点の火縄銃演武などもあり、来場者は晴天の下、思い思いに祭りを楽しみました。

4/28

映画「銀河鉄道の父」
特別試写会とパネル展を開催



岩村町と明智町で撮影が行われたことを記念して、映画「銀河鉄道の父」の特別試写会が行われました。舞台あいさつでは、成島出監督と俳優の豊田裕大さんが登壇し、撮影の思い出を語りました。ロケ現場再現とパネル展は、岩村町と明智町で6月25日(日)まで開催中です。